



持続的成長戦略研究会【提言】

滋賀県経済の持続的成長のために

報告者 座長 / 浅野副代表幹事

滋賀県経済が今後も持続的成長を続けるには滋賀をどんな地域にすべきか。この難しい命題に対して我々は9か月間活発な議論を重ね、先ず、2つのビジョンを持った。そして、そのビジョンを実現するために8つのアクションプランの実現が不可欠との結論に達した。

I. 2つのビジョン

第一に、経済を活性化するのに必要なイノベーション・新規事業をどこよりも起こし易い地域とすること。第二に、あらゆる人にとってやさしく最も働き易い地域にすることである。

II. アクションプラン

この2つのビジョンを実現するには、我々経営者が何をすべきか、その上で行政は何を行うべきか。経営者と行政が今後なすべきことについて次の通り提言する。

1. 我々経営者がなすべきこと

(1) パッション(情熱)を持って若手起業家を育てる

「シリコンバレーに若手起業家がなぜ集まり続けているのか？」この疑問を解くため、我々はこの2月シリコンバレーを視察したが、ポイントは以下の通りである。

- ① シリコンバレーには「起業のエコシステム^(※A)」が完全に機能していること。
- ② この「起業のエコシステム」の中核に、現役経営者のエンジェル・インベスター^(※B)がおり、彼らは若手起業家を育成指導しようという「パッション」に燃えていること。
- ③ 特に若手起業家を育成・指導する場としてのアクセラレータ^(※C)が大きな存在を占めていること。

我々は一気にシリコンバレーのように行かないが、シリコンバレーに一歩でも近づくため、上記②の現役経営者が若手起業家を育成・指導しようという「パッション」を持つことこそが何よりも重要ではなからうか。即ち、シーズを持つ若者を発掘、または、第二創業を企画して、自らのリスクで投資をする。そして得られた利益は再投資する。こんなエンジェル・インベスターこそ、今、我々に求められている経営者像であり、年間最終利益の最低1割以上を、毎年、若手起業家や自社の第二創業に投資する位の気概を持つべきであろう。金も口も出し、最後まで責任を持って育てる体制を構築すべきである。

(2) 成長産業への積極的取り組み ~ものづくりとITの融合に挑戦

先ずは、昨秋指定された「滋賀健康創生」特区での医療・健康部門への取り組みをはじめ、環境やエネルギー、介護、バイオ関連など、今後の成長産業に積極的に取り組む。

第二に、ものづくりとITの融合に関してもっと積極的に関与する。シリコンバレーは単にITの先端地域だけではなく、ものづくりとITの融合の先端地域であることを忘れてはならない。あのグーグルは、ものづくりの代表である自動車を単体としての存在だけではなく、ネットワークを構成する情報端末のひとつとしてとらえており、機器同士が通信ネットワークを介して高度な制御や生産を行なうM(マシン) to Mも既に常識となっている。ものづくりとITが接する領域にこそ大きなビジネスチャンスが存在していると理解すべきであり、我々が得意とする「ものづくり」も単体の高度化だけを目指すのではなく、ITと融合させ新しい分野に果敢に挑戦し、その先頭を走らなければならない。

(3) 多様な人材の積極活用 ~女性・シニア・外国人の活用

多様な働く人々にとってやさしい滋賀の実現を目指し、働き易さについて他府県より優位な四方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし、社員よし)の体制を構築すべきである。

【女性】人口減少時代を迎える中、最も重要な潜在力であり、労働力人口の減少を補完するだけでなく、その感性は新たな市場を創造する。現在63.1%ある滋賀県の生産年齢人口の女性の有業率(全国28位、平成24年就業構造基本調査(総務省)による)を一段と上げる必要がある。そのため、我々(地方公共団体を含め)は、女性社員の採用枠を拡大するとともに、これまで男性中心に配属してきた職場・職種についても、女性が就労できるよう改善しなければならないし、女性が仕事と育児を両立できる就業体制を早期に整備する。

【シニア】日本全体でも65歳以上の就業者が全就業者の1割を上回った現在、そのノウハウの活用、技術の伝承、生き甲斐、医療費・社会保障費の負担軽減の観点からも、その力は地元経済活性化に欠かすことができず、シニアが働き易い環境を更に整える必要がある。そのためにシニアのニーズに合わせ労働年齢の延

長や企業OBの活用促進等に積極的に取り組む。

【外国人】留学生及び高度外国人材の積極的な採用を図る。

(4)GEEK(ギーク)な人材を尊重 ～失敗に寛容な社風に変換

個性が強く、尖っている若者をシリコンバレーではGEEK(良い意味で変わり者の意)と呼んでいる。我々も独創的で既存の枠組みにとらわれず、グローバルな行動の出来る人材を求めるのは当然である。しかしながら、役所や大企業への就職を第一とする安定優先志向の強い風土からはGEEKな人材はなかなか生まれ難い。従って、先ずGEEKな人材を高く評価する社風・人事評価に改め、社会そのものを変える位の覚悟が必要である。また、「失敗は美学」の精神の基、失敗にも寛容な社会の実現に向かわなければならない。

2. 滋賀県への提言

(1)起業・新規事業創出の体制の整備 ～スタートアップヴィレッジ^(※D)の充実

平成24年就業構造基本調査によれば、滋賀県における起業家数は人口100人あたり0.76人(全国43位)と低位にある。ついては、起業(含む第二創業)に意欲旺盛な気概のある人材を集め、支援・教育・指導すると共に産官学金が連携する「起業のエコシステム」のセンターとしてスタートアップヴィレッジを開設願いたい。

スタートアップヴィレッジの概要は以下の通り。

- ① 既に県が中心となって産業支援プラザを設立し、様々な制度等を整え起業支援を行っているが、更に効果を上げるため、県には引き続き施設の提供・維持・管理、運営費の負担、対外的PR、家賃減免等のバックアップを行って頂きたい。特に、スタートアップの事業運営における企画・運営は、事業経験豊富な民間出身者(出来ればシリコンバレー経験者)が主導で行う体制とする。
- ② 起業家(含む第二創業)に対し、あらゆる面で全面支援・徹底指導を行うアクセラレータ機能を第一義とし、昼夜を問わずエンジェル・インベスター、大学関係者、ベンチャーキャピタリスト等が自由に集い活発な情報交換・議論・ハッカソン^(※E)・プレゼンが行われる場とする。
- ③ 同時に、起業家(含む第二創業)と産官学金の各ステークホルダーが持つ様々なニーズ・シーズを取りつなぐ(マッチング)場とし、大企業や他府県有力企業、グローバル企業との橋渡しも行い、事業化への実効性を高める。
- ④ 日常の業務は、ビジネスセンス・経験豊富な専門のプロデューサーが中心となり、卓抜した技術力と販

売人脈を持つ県内シニア居住者をアドバイザーとして大いに民間力を活用し、他府県には例を見ない強力な実務サポート体制とする。

- ⑤ 大阪のナレッジキャピタルや京都リサーチパークなど他府県のインキュベーター施設やシリコンバレーのアクセラレータなどとも連携する。
- ⑥ 新デジタル革命に対応できる最新の機器を備えたファブラボ機能^(※F)を持たせる。

(2)民と協働して、多様な人材が働きやすい体制の整備

【女性】県は既に待機児童の減少や育児中の女性の労働環境整備に取り組んでいるが、これらのスピードアップを図る。また、滋賀県及び各市町村は、女性の管理職への登用を推進する。

【シニア】高齢者の職業能力開発に関わる県施設の整備・充実を行う。

【外国人】高度外国人をスタートアップヴィレッジに優先入所させるほか、住みやすい街づくりを行う。また、高度人材ポイント制の弾力的な運用(特区での対応等)及び永住権VISA発給制度の確立等を図る。

(3)税制面・金融面での対応

起業家や多様な人材を滋賀に呼び込むためには、滋賀で起業すれば有利、滋賀に住めば有利という、インセンティブもひとつのポイントとなる。ついては、以下の事項を検討する。

- ① 滋賀県で起業した場合の、固定資産税等の地方税に関する税制優遇措置を拡大する。
- ② 滋賀県内において、起業支援を目的として行なった贈与については、相続税を軽減する特区を創設するよう、国に働きかける。

(4)大学との連携強化の体制作り

大学は、新規事業のニーズ・シーズの宝庫であり、起業家や既存企業が新規事業に取り組むに当たり、大学との連携体制を確立・強化することで事業化の可能性が大きく広がる。対象となる大学は滋賀県内に留まらず、京阪神さらには世界の大学に拡げ、研究者・学生を広く招聘すると共に、研究の成果が効果的に事業に結びつくよう、スタートアップヴィレッジの整備や産官学連携会議の活性化をはじめ、効果的なマッチング・共同研究の体制を整備する。

Ⅲ. まとめ

滋賀は交通の便が良く、琵琶湖に象徴される自然の中、落ち着いた雰囲気ですべてに最大限に感性を駆使して、快適に研究開発に取り組める抜群の環境という強みを持つ。全国・

全世界に向けた情報の集積・発信の体制と、他地域施設等との連携やエコシステムを確立し、働く人々にやさしい体制を構築することにより、全国から起業に情熱を燃やす

若者や多様な人材を集めることができる。この生き活きた起業・第二創業の力と女性・シニア・高度外国人材の力によって、滋賀の持続的成長が果たせると確信する。

※A: 起業のエコシステム

起業・商品開発から事業化に向けて様々な関係者やものが有機的に結びつき協働する体制。我々がシリコンバレー視察時に面談したスタンフォード大学のダッシャー教授らによれば、シリコンバレーの「起業のエコシステム」とは次の通りと考えられる。

- ① シーズ(アイデアと技術)を持つ若者がシリコンバレーに集まる。
- ② それらの中でも有望と思われる若者に対して、ビジネス経験豊富な現役経営者のエンジェル・インベスターが中心となって、アクセラレータに入所させ、3～4ヵ月間起業家になるための指導をし、投資をし、起業させる。
- ③ 起業後、軌道に乗ればエンジェル・インベスターがベンチャーキャピタルを呼び込む。軌道に乗らなければ、企業を成長させるプロを派遣したりして、企業の形を再度整える。
- ④ より企業を成長させ、大企業などに高値で売却する。またはIPO(新規株式公開)に導く。
- ⑤ 売却により得られた資金を再び新起業につき込む。

※B: エンジェル・インベスター

設立間もないベンチャー企業に投資や経営のアドバイスを行う個人投資家。本来、現役経営者は含めない意味で利用されているが、ここでは、現役経営者も含める意味で利用しているほか、投資対象に第二創業への研究・開発投資も含めている。

※C: アクセラレータ(シードアクセラレータ)

「種の成長を加速させる」という意味。起業初期段階で、資金を供給するだけでなく、事業の成長まで支援する、若い起業家を育成する仕組み。

※D: スタートアップヴァイレッジ

新規事業者を対象とした交流サロン。かつ、知識・技術・ノウハウ・情報等の集積地。

※E: ハッカソン

ハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語。同じテーマに興味を持った開発者たちがオープンに集まり、大人数で賑やかに、協議・協力しながら集中的に共同作業を行う催し。

※F: ファブラボ

3Dプリンターやカッティングマシンなどデジタル時代の新しいものづくりに対応した様々な工作機械を備えた、市民に開放された工房。